

鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標【実習教諭、実習助手】

平成31年4月1日 鳥取県教育委員会

職		実習助手			実習教諭			
観点 キーワード	ステージ	キャリア スタート期 (採用時)	育成期(第1ステージ) (1~5年目)	向上期(第2ステージ) (6~10年目)	充実期(第3ステージ) (11年目以降)			
			実習助手としての必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。	第1ステージの経験をもとに、実習指導の専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。	充実期前期 (11~15年目)	充実期後期 (16年目以降)		
素 養	①実習指導を担うに当たり必要となる素養	理解力、教育的愛情	児童生徒に対する理解と教育的愛情を有している。					
		専門的知識・技能、指導力	実習・実習に関する専門的な知識・技能と実践的な指導力を有している。					
		創造力、対応能力	課題解決に向けた柔軟な発想と対応能力を有している。					
		自覚、協調性、倫理観	組織の構成員としての自覚と協調性を有するとともに、公務員としての倫理観、及び法令順守の精神を有している。					
		教養、人権意識	社会人としての豊かな教養、優れた人権意識を有している。					
実 験 ・ 実 習	②教育の方法及び技術	各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画 単元構想 学習指導案 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づいて実習・実習の指導により生徒の技能を高めるとともに、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた指導に取り組んでいる。 実習に関する施設、設備、器具等の安全及び管理に関する技能と知識を習得している。 情報教育機器の活用に関する知識を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、担当教科・領域の実習指導、特別支援学校における各教科等における指導に関する年間指導計画の工夫・改善を提案するとともに、児童生徒の実態や学校、地域の特色を生かした指導方法の改善に取り組み、専門性の向上を図っている。 実習・実習に関する施設、設備、器具等の管理の在り方の改善を図っている。 児童生徒一人ひとりの特性や健康状況等に応じた実習・実習における安全管理の在り方について、改善を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、担当教科・領域の実習指導、特別支援学校における各教科等における指導に関する年間指導計画の工夫・改善を行うとともに、学校や地域の特色を生かした実習・実習の開発を行い、校内研究会等で改善案を提案している。 実習・実習に関する施設、設備、器具等の管理体制及び実習・実習における安全管理に係る改善案を提案している。 	<ul style="list-style-type: none"> 校長の示す学校教育目標や学校として目指す方向性、及び教育活動の在り方を踏まえ、学校の特色化・魅力化づくりに積極的に関与している。 実習・実習に関する施設、設備、器具等の管理及び実習・実習における安全管理を組織的に行う体制づくりに努めている。 	
		主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 学習集団 指導評価 指導法工夫 授業改善 主体的、対話的で深い学び 情報教育機器(ICT)の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 指導において、教諭と連携して課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現に努めている。 指導において、情報機器等を積極的に活用するなどの実践をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器等を活用した教材を開発する等の、工夫ある授業を実践することで、専門性の向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教諭と連携して、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践している。 情報機器等を活用した教材を開発するなどの、工夫ある授業を実践することで、児童生徒の学びの質の向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教諭と連携して、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践するとともに、教科横断的な視点を持って校内における授業改革の推進を行っている。 情報機器等を活用した教材を開発するなどの、工夫ある授業を実践するとともに、他の教職員に情報機器等の効果的な活用方法を提案している。 	
児 童 生 徒 理 解 ・ 指 導	④児童及び生徒理解、教育相談、進路指導及びキャリア教育、いじめ・不登校対策⑤特別支援教育等	教育相談、生徒指導、いじめ・不登校対策及び特別な配慮を必要とする児童生徒への指導	<ul style="list-style-type: none"> 個への対応 コミュニケーション能力 特別支援教育の視点 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりの実態把握に基づき、個に応じた教育の重要性を認識している。 児童生徒の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導を行っている。 いじめ・不登校等の課題に対して、関係教職員への報告・連絡・相談を密にして対応している。 児童生徒の「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりの特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導を行っている。 生徒指導上の課題を把握し、解決に向けて組織的に対応している。 いじめ・不登校等の課題について、解決に向けて組織的に対応している。 関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」に基づき実習・実習の側面から「個別の指導計画」の作成に向けた提案と活用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の児童生徒の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導を組織的に継続して行っている。 学校全体の生徒指導上の課題について教職員間で共通理解を図るとともに、課題の解決に向けて、組織的に対応している。 組織的な校内支援体制に基づき、合理的配慮を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童生徒の実態を的確に把握し、担任や学年団に対応案を提案することで、組織的な対応ができる体制づくりに努めている。 	
		キャリア教育(生き方・進路指導)	<ul style="list-style-type: none"> 生き方指導 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(生き方・進路指導)の重要性を認識している。 児童生徒の実態や学校(学科)の特色、地域の実情など様々な視点から現状を把握するとともに、児童生徒に、卒業時点で「何ができるようにさせたいか」を具体的に定めている。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(生き方・進路指導)に必要な知識を習得し、児童生徒に将来の夢や希望を持たせる指導を行うとともに、地域や故郷への愛着を育む指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の夢や希望及び実態を的確に把握し、キャリア教育(生き方・進路指導)の視点に立ち、個に応じた適切な指導を行っている。 		
学 校 運 営 ・ 教 職 員 連 携	⑥学校運営⑦他の教職員との連携及び協働の在り方	学校安全への対応	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理 	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野の実験・実習に関して、想定しうる危険性とその対応策を把握している。 危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう適切な対応や危機の未然防止に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、学年や学校全体を広く見渡す視点に立った上で、過去の事例に学びながら、迅速な対応及び危機の未然防止に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制(危機管理マニュアル等)を把握し、必要に応じて危機管理体制の点検や改善をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の視点に立ち、危機の未然防止策や危機発生時の具体的な対応策について、校長に進言したり、教職員に提案したりするなどの対応を行っている。 	
		家庭・地域とつながる力	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭、地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会に貢献することについて、自分なりの考えを持ち、実行しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域と連携し、児童生徒を共に育てていこうとする関係を築いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・関係機関等と連携し、組織的な対応をしながら児童生徒の指導を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・関係機関等との連絡・調整に努め、必要な情報を収集・発信しながら、学校課題の解決に向けた校内体制を構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、地域等との連携、調整役として、保護者や地域等との協力を得ながら学校課題の解決に向けた取組を推進する役目として率先して行動している。
		組織として連携・協働する力(同僚、関係機関、異職種)	<ul style="list-style-type: none"> 目標 業務改善 事務 外部 チームマネジメント 協働的教職員集団づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係機関・異職種との連携を適切に行っている。 学年や教科等の組織から学校全体を広く見渡す視点に立ち、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題の解決に向けて、関係機関・異職種との連携を計画的かつ積極的に行い、組織力を向上させている。 組織全体について、自己の経験を生かしながら内外の環境要因を広く見渡し、その特色を生かした「チーム学校」(効果的・効率的な組織)としての教育活動を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学校課題の解決に向けて、教職員間や関係機関等との連携・協働体制の構築に向けて、「チーム学校」(効果的・効率的な組織)作りに努めている。 教職員の意見を積極的に吸い上げるなど、風通しのよい職場作りに努めるとともに、働き方改革の推進に取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> 各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。 								